

## ICT夢コンテスト 実践事例応募用紙

※この応募フォーマットはホームページよりダウンロードしてください。

この実践事例は下の要素の何々を含んでいますか。該当する項目の左に ● を記入してください。複数選択可です。			
効果的な授業	<input checked="" type="checkbox"/> 児童生徒の資質・能力向上	教員研修	ICT活用指導力向上
校務の情報化	保護者や地域への情報発信	ICT環境整備	ICT活用サポート
<input checked="" type="checkbox"/> ICT活用推進	学校運営・管理	保護者や地域による学校支援	地域での児童生徒学習支援
学校行事	その他 ( )		

学校又は団体名	唐津市立馬渡中学校		
団体種 (校種、NPO 等)	公立中学校		
応募者氏名 (漢字)	丹野 到	応募者 職名	校長
応募者氏名 (カタカナ)	タンノ イタル		
学校や団体への所属年数	30年	ICT夢コンテストの 応募回数 (今回を含む)	1回目

実践事例タイトル(30文字以内・サブタイトル無し)	離島の弱点克服！ ICTを活用した外部講師によるアナウンス技術の遠隔指導		
教科もしくは分野	課外活動	教科の単元がわかる場合 (複数可)	
対象者 (学年・他)	中学2年		
実践場所 (PC教室、体育館等)	特別教室	実践時期	平成30年5～6月
活用したICT機器、教材、環境等	コンピュータ (Windows)、Skype、Webカメラ	実践の特徴 (先進性、普及性) をどちらか一つ選択 ※該当する項目の左に●を記入	<input type="checkbox"/> 先進性
			<input checked="" type="checkbox"/> 普及性

アンケートをお願いします。							
コンテスト企画運営の参考にさせていただきます。番号を「番号記入欄」に記入してください。複数記入可です。							
(問) 本コンテストをどのようにお知りになりましたか。							
(回答群)							
①案内ポスター ②案内チラシ ③事務局メール ④新聞広告より ⑤他のニュース媒体から ⑥前から知っている							
⑦教育委員会からの紹介 ⑧上司や友人・所属団体からの紹介 ⑨JAPET&CECホームページより							
番号記入欄	②	⑥					

\*連絡先住所は、事務局からの郵送物を受け取れる住所をご記述下さい。また、応募者 E-mail 及び応募者電話番号は、事務局から連絡を取らせていただけるものをご記述下さい。

- ・ 1 頁目表紙 (応募者情報) のフォーマットの変更は、ご遠慮下さい。
- ・ 応募事例の図や写真データの組み込みは自由です。参照 URL は不可です。
- ・ 表紙記述 1 頁と実践事例内容記述 2 頁以内、計 3 頁以内で纏めてください。それ以上は受け付けられません。

## 実践の概要（実践内容を5行以内で簡潔にまとめる）

情報化社会に生きる中学生の豊かな人間性の育成を目標に、ICTを活用した外部講師によるアナウンス技術の遠隔指導に取り組んだ。簡易なWeb会議システム「Skype」を活用し、島外の外部講師による遠隔指導を受けることで、離島の弱点を克服した。

生徒は、同コンテストへの出場を果たすことができたとともに中程度の成績（明確な順位は未発表）を得て、ICT活用の有効性を大いに感じるとともに「挑戦する意欲」を体得できた。

### (1) ICT活用の目的とねらい

島を取り巻く状況は、年々厳しくなっており、島の未来を担う子どもたちに、21世紀を生き抜く力を身に付けさせることが求められている。そのため、子どもたちの学習習慣の定着を図るとともに、思考力・判断力・表現力を高め、外へ発信できる力を身に付けさせる指導を行うことが必要である。

そこで、情報化社会に生きる中学生の豊かな人間性の育成を目標に、NHK杯全国中学校放送コンテストへの出場を目指しアナウンス技術の指導に取り組むこととした。

ただし、アナウンスの指導に当たっては、専門的な指導技術が求められるため、外部講師の活用が必要となる。しかし、本校は離島に位置することから、外部講師からの直接指導を受ける機会の設定が難しく、その解決策としてICTを活用することとした。

### (2) 実践の特長・工夫（先進性があるか または普及性があるか）※1

#### ① 実践の状況

本校は、小学生22名、中学生12名、児童生徒数計34名の極小規模校である。今回、課外活動での実践として、総合文化部に所属する中学2年生の女子生徒1名に対して外部講師によるアナウンス技術の遠隔指導を行った。

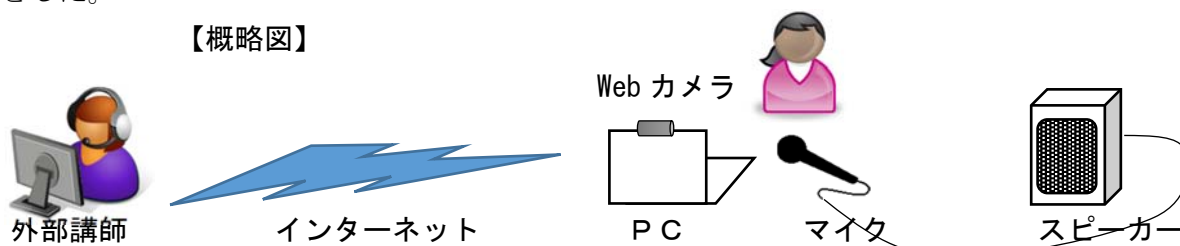
#### ② ICT活用のポイント

Web会議システムを活用し、外部講師によるアナウンス技術の遠隔指導を行う。その際、導入が容易なシステムとしてMicrosoft社のSkypeを利用する。そして、技術指導を受けている際の録画クリップや音声クリップを即座にDVD化して生徒に渡すことで、家庭での自己練習が容易にできるよう工夫した。

#### ③ 使用したICT環境

本校には、離島間の合同学習を行うためのCISCOシステムが導入されており、同システム同士であれば、容易に接続し、高画質な映像や音声による通信が可能である。しかし、CISCOシステムは高額なため、個人での導入は難しく、外部講師との通信には簡易なシステムの導入が必要となる。そこで、マイクロソフト社のSkypeを活用し、アナウンス技術の指導を遠隔で行うこととした。なお、インターネットを活用した通信では、様々な脅威が想定されるため、常時インストールした状態にせず、必要に応じてインストール・アンインストールして活用することとした。

【概略図】



#### ④ 指導過程

月日	曜	時間	内容
6月8日	金	9:30～12:00 13:30～15:30	外部講師による対面指導 (主に発声の指導) 外部講師による対面指導 (主に原稿作成の指導)
6月10日	日	7:50～ 8:00 17:30～18:00	担当職員による指導 (主に原稿作成の指導) 外部講師による Skype 遠隔指導 (主に読み方の指導)
6月14日	木	7:50～ 8:00	担当職員による確認 (主に読み方の確認)
6月16日	土	15:30～16:30	外部講師による Skype 遠隔指導 (主に読み方の指導)
6月18日	月	16:00～16:30	担当職員による確認 (主に読み方の確認)
6月20日	水	15:00～18:00	外部講師による対面指導 (主に読み方の指導)
6月21日	木	7:30～ 7:45 16:00～17:00	担当職員による確認 (主に読み方の確認) 外部講師による Skype 遠隔指導 (主に読み方の指導)
6月24日	日	9:00～10:00 10:00～11:00	外部講師による対面指導 (主に発声の指導) NHK杯中学校放送コンテスト佐賀県大会【出場】

### (3) 実践の成果 (子どもたちや教員はどう変わったか、絆の深まりは見られたか等)

本実践は、生徒1名が対象であることから、成果を定量的に示すことは難しい。そこで、NHK杯中学校放送コンテスト佐賀県大会への出場と、その結果を持って成果としたい。

同コンテストは、アナウンス技術の指導の特殊性から、新規の出場は二の足を踏むことが多い。本校においても、これまで同コンテストへの出場実績がなく、アナウンス技術の指導のノウハウもない状況であった。今回、Skypeを活用した外部講師による遠隔指導を受けることで、離島の弱点を補強し、アナウンス技術の指導が可能となった。その結果、同コンテストの出場を果たすことができたとともに中程度の成績(明確な順位は未発表)を得た。

出場した生徒の率直な感想として、「アナウンス技術の習得に役立った」「次年度も、ぜひ挑戦したい」「類似のコンテストがあれば、ぜひチャレンジしたい」とたいへん好意的な感想を述べている。また、「Skypeによる遠隔指導は、アナウンス技術の習得に大いに役立った」「DVDを自宅で視聴し自己練習に役立てることができた」とICT活用の有効性を大いに感じている。加えて、「チャレンジする意欲を体得することができた」「失敗しても顔に出さないよう改善したい」等、生徒は「挑戦する意欲」を体得できている。これらのことから、「外へ発信できる力を身に付けさせる」「情報化社会に生きる中学生の豊かな人間性の育成」という本実践の目標に対して、一定の成果を得ることができたものととらえている。